

災害ボランティア実行委員会「ぶちボラ YP 勇気」 私たちにできること～災害ボランティア啓発活動

・ 構成員

代表者	： 藤井友理	（ 社会福祉 学科 3 年 ）		
会計	： 藤井優香	（ 社会福祉 学科 1 年 ）		
指導教員	： 草平武志	（ 社会福祉 学科 ）		
メンバー	： 岑田知沙代	（ 社会福祉 学科 3 年 ）	石井美沙紀	（ 社会福祉 学科 2 年 ）
計 28 名	中尾友貴	（ 社会福祉 学科 1 年 ）	神藤沙貴恵	（ 社会福祉 学科 2 年 ）
	波田野未奈	（ 社会福祉 学科 3 年 ）	山中夢実	（ 社会福祉 学科 3 年 ）

・ プロジェクトの目的

- ・ 3月11日に発生した東日本大震災の復興に向けて、以前から交流のあった岩手県立大学との連携のもとに“私たちにできること”を考え、ボランティア活動を実行する機会をつくる。
- ・ 実行委員会のメンバーが学ぶ、知るだけではなく、学内外の多くの人に向けて情報発信や勉強会の企画を行い、知識を深めるとともに他学部間や地域とのつながりを構築する。

活動内容

1. “わたしたちにできること”として

- ・ メッセージうちわ、シュシュ（髪留め）の作成、送付

現地のニーズを知るため情報収集をする中で、夏の暑さ対策や現地の女性が輪ゴムで髪をくくっているということを知り、メッセージ付のうちわと手作りシュシュを送ることを決めました。岩手県立大学にニーズの有無を確認し、岩手県立大学宛に送り、仮設住宅でのサロン活動等、現地での活動に役立ててもらいました。

- ・ 安全ブザーの収集、送付

さらに、山口災害救援という団体と共に活動をする中で、現地での高齢者の緊急時用の呼び出しブザーや女性・子供の防犯ブザーが不足しているという状況を知り、学内や母校に呼びかけ、安全ブザーを集めて動作確認等をした後、現地に送りました。

- ・ アロマを使ったハンドトリートメント

また、「現地の方に癒しを提供したい」との思いからアロマを使ったハンドトリートメントを始めました。アロマセラピーインストラクターの資格を持つ保健室の松尾先生に講習をしていただき、練習を重ね、まずは学内で募金活動を兼ねたハンドトリートメントの提供を行いました。

7月16日のオープンキャンパスや7月23日のチャリティイベント in 県大、8月9日の高校生公開講座等にも参加し、来ていただいた方にハンドトリートメントを提供するとともに私たちの活動や現地の情報などの発信を行いました。



夏の長期休暇には、約10名の学生が現地に赴き、ボランティアをしました。その際、仮設住宅でハンドトリートメントによる癒しの提供を行い、「こんな気持ちいいのは久しぶり」と、とても好評でした。

さらに、おいでませ！山口大会や美祢市「福祉の市」、白石地区地域交流フェスティバル、防府市民活動フェスティバル等、学外のイベントにも数多く参加させていただき、パネル展示やハンドトリートメントを行い、多くの地域の方に喜んでいただくことができました。



2. 広報・啓発活動

- ・勉強会、実行委員会、報告会の開催

実行委員会では、定期的に勉強会や実行委員会を行っています。講師として県社協の方に来ていただき、「災害とは何か」や“現地での活動”についてお話をさせていただいたり、活動報告会を開催し、現地での活動報告等を行ってきました。



- ・壁新聞「それゆけ！ゆうきくん」の発行

情報発信のひとつとして壁新聞を毎月発行しています。壁新聞には、活動報告やボランティア紹介、今必要とされていること等を掲載しています。



- ・ホームページ、ブログ

ホームページやブログを立ち上げ、活動報告や活動の様子の写真などを掲載し、定期的に更新しています。これらは、活動の記録でもあります。広報・啓発活動のひとつとなっています。

(HP : <http://buchiboraypuki.jimdo.com/>
 blog: <http://ameblo.jp/buchiboraypuki/>)

3. つながりの構築

- ・他大学とのつながり

現地でのボランティア活動の中で知り合った大学生や私たちのホームページを通じて実行委員会の活動に興味を持ってくれた大学生など、山口県内の大学生や他県の大学生とのつながりがこの活動の中で構築されています。山口東京理科大学の災害ボランティア団体と一緒に活動を行ったり、下関市立大学で毎月11日に行われている「福興カフェ」というイベントと一緒に企画させていただき、参加したりしながら、自分たちの地域で災害が発生したときのための大学間ネットワークの構築に取り組んでいます。



- ・地域とのつながり

山口災害救援やじゃがいもの会の方など、地域の団体の方と一緒に活動をさせていただいています。現地でのボランティアに同行させていただいたり、活動に関するアドバイスをいただいたり、たくさんの方の支えがあって私たちの活動は成り立っています。



また、私たちの活動が記載された広報誌を見た宮野地域の方がうちわやジュジュ制作のために、はぎれやうちわを寄付してくださったりなど地域の方の支えも活動の原動力になっています。



4. 自分たちの地域への還元

災害が起こる前に普段の備えや災害時の心得を知っておくことの大切さを活動のなかで学び、大学のある宮野地域でも防災・減災の取り組みが必要だと感じ、地域防災支援の取り組みを始めました。山口市社協や地区社協と連携を図り、地域で行われる避難訓練への参加やふれあいいきいきサロンに訪問し、地域住民の方と直接交流しながら、防災意識を高めていくための活動などを計画しています。そのために、文献を読んだり、防災グッズを調べたりしながら、私たち自身も防災・減災の勉強をしています。



・成果及び感想

このプロジェクトを通して、学内だけではなく学外のイベントなどにも広く参加することができ、地域住民の方々に啓発をすることができました。また、啓発活動によって地域住民の方々や他大学の学生とのネットワークの構築もできました。そして、災害ボランティア活動をする中で、自分たちの地域の中での防災意識の高めるための啓発活動や取り組みの必要性を感じ、新たな取り組みを始めることができました。さらに、実行委員会のメンバー自身も防災や減災に対する意識を高め、知識を深めることができましたと思います。

復興に明確な終わりはないと思います。わたしたち大学生にできることは小さなことかもしれませんが、わたしたちは“微力”であっても“無力”ではありません。今後は、地域での防災活動に力を入れながら、これからもみんなで力を合わせて細く長くつながる支援をしていきたいと思っています。

・指導教員のコメント

災害ボランティア活動を通じ、学生達自身が遠く離れた東北の地に思いを寄せ、いくつもの活動を創造してきました。他者を思い遣り、自らが行動し、人々の気持ちを結びつけるというこうした営みは彼らの成長の中で大きな経験になったと思います。今後は、山口での防災や災害ボランティア活動に繋がっていくと期待しております。活動に協力いただいた地域の皆さんやドリームアドベンチャープロジェクトの関係者に感謝を申し上げます。

・収支報告

配分額	100,000 円	
支出内訳	防災グッズ購入費	19,211 円
	文献購入費	18,378 円
	資材・文具購入費	19,796 円
	通信費	1,061 円
	印刷費	29,860 円
支出合計	88,306 円	
残金	11,694 円	